NIE実践報告

1．タイトル：「大豆博士新聞」をつくろう

2．学校名

新潟県新潟市立東青山小学校

3．実践者名（代表者名）

秋山　真琴

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　109人

6．単元（本時の学習課題）名

めざせ!大豆博士

7．目標（狙い）

・新聞文章の特徴や紙面構成、見出しの大切さが分かり、新聞づくりに生かす。
・大豆についての調べ学習、工場見学などを通して分かったことを、相手意識をもって新聞にまとめる。

8．評価の視点

新聞の秘密に基づき、分かったこと、自分の伝えたいことを明確にして、大豆新聞に書きまとめることができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「めざせ!大豆博士」の中の小単元「発表!みんなに知らせよう」[総合的な学習の時間:6時間]

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)主見出しの効果や記事・写真の割り付けの仕方など、新聞の秘密を見つける。(1時間)
(2)主見出しをかくした新聞記事に、自分たちで考えた主見出しをつける。(本時:1時間)
(3)グループで紙面構成を考え、分かったことや見学先の工場の方に伝えたいことなどを明確にして、大豆博士新聞を書く。(3時間)
(4)グループで新聞を紹介し合った後、完成した新聞を見学に行った工場に送る。(1時間)

(留意点)
・「ひまわり新聞社員」という設定で記者章(ワッペン)をつけ、新聞記者になりきることにより、主見出し作りに意欲的に取り組ませる。
・理科「風のはたらき」の学習や学校生活でのできごとなど、児童に身近な内容の記事(朝日小学生新聞)を選んで提示する。
・友達と話し合いや分担をしながら新聞づくりができるように、グループで１つの新聞を完成させる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・新聞記者になりきり時間を意識して主見出しを考え、検討する学習活動を進めたことは、児童の学習意欲を高めた。また、最も効果的な見出しを作ったグループに贈られる「スーパールーキー賞」目指して活発に話し合ったり、他のグループの主見出しに関心をもったりするなど友達とかかわり合う姿が見られた。

12．成果と課題

・新聞の秘密を発見し、新聞記者になりきって新聞作りに取り組ませたことで、伝えたいことは何かを考えて主見出しや文章を考えることができた。
・見学に行った工場の方に学習の成果が伝わるような新聞にしようと投げかけたことで、相手意識をもって新聞作りをすることができた。
・取材の段階から、記者になりきって情報を集めようという取り組みをすれば、さらに意欲的に取り組むことができた。